

あなたも
高教組へ

1 面 ・勤務条件労使協議会
2 面 ・高校教育シンポジウム
県評女性部初春のつどい

しす
おか

高教組しんぶん

第504号
2025年
2月14日

発行所
静岡県高等学校障害児学校教職員組合
〒420-0004 静岡市葵区末広町1-4
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyouso.jp/
e-Mail info@s-koukyouso.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、
全教職員に配布しています

充実した学びを保障するために、 勤務条件の改善が急務

第2回 勤務条件労使協議会

2月3日(月)、第2回勤務条件労使協議会を行いました。教職員人事評価結果、校務貢献を考慮した成績率の運用、昇給への反映、時間外在校等時間などについて協議しました。

1、教職員人事評価結果について

2024年度前期、県立学校教職員の上位評価SAは45%。しかし養護教諭、栄養教諭、養士、実習助手、寄宿舎指導員、技能員の少人数職種には少ないこと、過去11回の評価で上位評価なしが高校6.6%、特支で2.8%いることを質しました。

「こんな働いているのに評価はB」などの不満にも弊害が現れています。「他を否定したり攻撃する言動が増え、職場がぎすぎすしてきたのも評価制度のせい」「教職志願者減の遠因になっている」などの

2、勤勉手当の校務貢献考慮した成績率運用について

県教委は、個々の職員が目標をもつて取り組み成長できるようなアドバイスや仕事分担の見直しなどをすすめるという回答。組合からはあらためて、

3、人事評価による昇給結果

人事評価による昇給を導入しましたが、経験年数による昇給もあるので40歳50歳代への適用は少数でした。

組合からは、連続昇給で差を付けないこと、育休による昇給延伸の回復、

4、上限超過者数・時間外在校等時間

2023年度の月45時間「原則上限」超過者が高校では約60%、月100時間の「特例上限」超過者数約34%。年間平均時間外在校等時間は、前年より微減し、高校では1人年間438.3時間、特支では234.6時間でした。

5、用務員の配置見直し・会計年度任用職員への私傷病特休の適用

その他、高校での会計年度任用用務員の勤務時間削減を提示。交付金範

主張

12月15日(日)に、静岡高教組志太榛原地区「第35回味な平和ゼミナール」を開催しました。30年前の1994年、焼津水産高校の組合員が、戻りカツオと磯自慢を

自分事として受け止めること

味わいながら平和を学ぶために始めた企画。黙っていた第五福竜丸の乗組員が証言し始めたのもこの場がきっかけでした。

今回は、ビキニ被災70年を節目として、1959年新藤兼人監

目撃者になることだ」とあります。「当事者となり、自分事とするつもりで、一緒に観ましょう」とあらためて参加者に強調しました。

話が変わりますが、最近、教育や子どもた

私たちのケアをしながら成長を見守る『放課後カルテ』。直近では文部官僚が私立の進学校に赴任し学ごこの意味を問い直す『御上先生』。それらを妻と一緒に観ながら「当事者になり

「個人的なことは政治的なこと」。子どもたちの抱える問題を他人事とせず、「正義の名のもと暴力」を自戒しながら寄り添い、すべての人が過ごしやすい学校、職場にしたいものです。

県内での限界とか。地域での学校の役割が期待される中、教員減少、多忙化だけでなく用務員の勤務時間短縮ではますます拠点としての役割を果たせなくなります。県として国への交付金増額の要望を求めました。また、会計年度任用職員にも私傷病特休を常勤職員と同様に適用することが示されました。これは組合も大歓迎です。

第24回全国障害児学級・学校

学習交流集会

今年の集会には、静岡県から現地に12名、オンラインで3名が参加しました。そのうち、未組の方の参加が4名ありました。組合加入にはつな

私は20代の頃からこの集会に何回か参加していましたが、今年久しぶりに夜の交流会に参加しました。夜の交流会自体、5

来年度は、新たに「障害のある子ども」の教育を語り合う 全国学習交流集会」と集会名を変えて継続されます。開催地は千葉県です。皆さん誘い合って参加しましょう！

清水特支 青島花恵



視座

ずいぶん前のこと、小テストの採点を

「気づき・戦争と人権」

全体講演 ダニー・ネフセタイさん
(元イスラエル兵士)

1月25日と26日に東京で開催された「高校教育シンポジウム」に参加しました。

全体講演は元イスラエル兵ダニー・ネフセタイさんによる『気づき・戦争と人権』。流暢な日本語でユーモアをたっぷり交えながら、大切なことを伝えてくれました。また、分科会(民主的な主権者を育てる学校づくり)では、全国の実践が4本報告されました。どれも「人権」に通底する内容で、ダニーさんの講演と結びつくものでした。

《講演要旨》

私は1975年に徴兵され、空軍で3年過ごしました。その後バックパッカーでアジアを旅し、日本へ。もう43年になるが、自分の国

全体会では、元イスラエル兵で埼玉県在住の家具職人ダニー・ネフセタイさんに講演していただきます。ダニーさんは、徴兵制によってイスラエル軍に入隊し、3年間空軍に所属。退役後アジアの旅に出て来日。1988年、埼玉県秩父に移住、家具作家となり、注文家具や木工小物を中心に制作、販売する木工房ナガリ家を夫婦で営みつつ、反戦や反原発を訴える講演を各地でおこなっています。

ダニーさんと現在のイスラエル・ガザの泥沼状態、日本の過去と将来を一緒に考えます。

講演『気づき・戦争と人権』 ダニー・ネフセタイさん



中東戦争は、パレスチナ人にとって「ナクバ」(災厄)となった。イスラエルのやったことは、日本が満州国にしたのと同じ「開拓」だ。

イスラエルでは高卒で男は3年、女は2年入隊する。私はパイロット養成コースに入った。イスラエルで戦闘機パイロットになるのは名誉・誇り。私はパイロットになれず、3歳からの夢が絶たれて泣いた。でも今はラッキーと思える。戦闘機の目的は人を殺し、物を破壊すること。19の時には気づかず、日本に来て気づいた。かつてよくないのに、かっこいいと思うのは映画『トップガン』の影響か(笑)。

今回のハマスの行為は許されない。でもテロ行為は武力で止められない。テロリストという職業はなく、テロを行うのは目的達成のため。戦争の犠牲者とは、殺された人と、永遠に泣く遺族はもちろん、殺した兵士も含まれる。殺したのが敵ではなく、自分と同じ人間だと気づき、一生生涯その体験が心の傷として残り、PTSDに苦しむ人が多数生まれる。彼らも犠牲者だ。戦争時に生まれ、政治家の間違った判断と洗脳・プロパガンダの犠牲となった。日本に来て、ある日曜日の代々木公園で、アラブ人やシリア人がキッチンカーを出していることに私は驚いた。シリア人をずっと敵だと思っていた。



でも話をして、友達になれた。敵ではなかった。ゆがんだ教育によって洗脳されていたことに気づいた。

ある講演で「戦争は昔からあったし、今もあるし、今後もある。止められるはずがない」と言われたことがあった。「戦争は人間の本脳」という人も。でもそうじゃない。どの時代でも戦争と直接関わらなかつた人の方が、戦争のない地域の方が圧倒的に多かった。戦争を止めるのは不可能じゃない。私たちは歴史を学ぶが歴史に学ばない。戦争の理由と歴史を学ぶが、止める方法を学ばない。だから平和が「おとぎ話」になっている。

日本とイスラエルの最も悲しい共通点、それは近隣諸国を見下すこと。近隣諸国と平和的に暮らしたいと言いながら、武器を増やしている。広島・長崎の教訓はアウシュビッツと同じで、人権＝幸せに生きる権利を守ることに1月19日にガザの停戦合意がなかったけど、見守らないといけない。そもそも占領政策が終わらないと、本当の停戦は来ない。

私はイスラエルで最もリベラルの家に生まれた。でも疑問を持たずに入隊し

た。周りが敵だから、国を守るために。「国のために死ぬのは素晴らしい」と教わったが、それを言う権利は誰にもないと後で気づいた。今の世の中は要です。

県評女性部 初春のつどい

2月8日労政会館で静岡県評初春のつどいが開催され、会場40人、オンライン20人の参加がありました。

田中純さんの講演『防災を問い直す』。一人一人の「生きる」が脅かされ続けなければならない。

大雪のため、ぎりぎりに到着した田中純さんの熱量たっぷりの話に圧倒されながら聴き入りました。前半は能登の現状。地震の後の9月浸水被害で何重にも「生きる」を脅かされ続けている能登への政府の対応は「忍耐根性がある」で乗り切れというも「まん」で乗り切れというものは食う寝る出す(排泄)は全ての人のニーズであり人間の権利なのに、避難所では保障されない。足腰

「グレーゾーン」。今後どうなるかは私たち次第。子どもたちに真つ暗ではない・明るい時代をつくるために、ハート(愛)が必要で。田中純さんの講演『防災を問い直す』。一人一人の「生きる」が脅かされ続けなければならない。

県評女性部
2025 初春のつどい
田中純一さんの講演会
防災を問い直す
～一人ひとりの「生きる」が脅かされ続けなければならない～

能登半島地震から1年。被災した能登の風景はほとんど変わっていません。過疎地域では、地震の後の「自助」「共助」は全く機能しません。その上「公助」も不十分では現地は自力で復興するしかありません。

南海トラフ地震がいつおこるか分からない静岡県は、過疎地域と人口密集地が混在しています。「公助」は遅れて「自助」「共助」で1週間～2週間乗り切らなければならないことは、2022年の9月の台風15号の経験から予想がつきます。災害復興ではライフラインの復旧とともに大切なのは、地域の生業再建と居場所づくりです。災害復興に長く携わっている田中先生から私たちの「生きる」を守るヒントを学びとりましょう。

田中純一さんのプロフィール
北陸学院大学教授、災害社会学・災害復興論などが専門。3.11などの大規模災害で調査活動や学生とともにボランティア活動を行い、「人間の復興の観点に基づく被災社会システムの構築」を研究テーマとしている。学生ボランティア「よりよい花プロジェクト」顧問。

日時:2月8日(土)13:00受付
13:30開会
場所:労政会館(県庁5階3会議室)

参加費無料です。どなたでも参加できます。事前に県評までお申し込みください。お茶とお菓子もご用意します。ふるってご参加ください。

静岡県労働組合評議会
〒420-0851 静岡市葵区黒金町55番地 静岡交通ビル3階301
TEL/054-287-1293 FAX/054-286-7973 E-MAIL kenpyo@cy.tnc.ne.jp



「グレーゾーン」。今後どうなるかは私たち次第。子どもたちに真つ暗ではない・明るい時代をつくるために、ハート(愛)が必要で。田中純さんの講演『防災を問い直す』。一人一人の「生きる」が脅かされ続けなければならない。

続・映画の中の教師たち 21

「世界のはしっこ、ちいさな教室」

監督エミリー・テロン
2012年

この作品は、辺境の地で奮闘する女性教員たちのドキュメンタリーだ。アフリカのプリキナでトナカイ十数頭を引き連れ疾走し、遊牧民エヴェンキ族が滞在している場所へ出かけ、複数のテントを張り教室や自分の住む場とする。真つ赤な頬をした子どもたちがテントの教室に集まる。勉強することによって未来が開けていくことを丁寧に何回も説く。また、自民族の誇りを伝えながらロシア語以外にエヴェンキ語も教える。

20歳前後のタリスマは、人道支援団体が提供したボートスクールで教える。彼女は、親の反対を押し切つて高校を卒業し、教員となった。それほど広くないボートの中で子どもたちに読み書きや算数を教える。バン格拉デシユはイスラームの国。古い慣習が強く、女性である母親たちも娘に低年齢での結婚を勧める。結婚や育児が女性の幸せと思つている。だから、親たちは通学や進学に消極的で家族の習慣を優先させようとする。子ども

の通学や進学を望まない。タリスマは読み書き以外にも、女性の経済的自立の大切さや、児童婚を禁止した法律を説明し理解させようとする。子どもは想像を超える環境にもかかわらず、子どもたちの目の輝きを導き出す彼女たちの活躍に脱帽する。

(編集委員 池ヶ谷八州志)



販売アルバトロス
DVD 4180 円